

平成29年度内閣府 地震・津波防災訓練 【福岡県行橋市】

実施報告書 (概要版)



福岡県行橋市について

行橋市は、福岡県東部にある人口約7万3千人のまちです。古くより大陸文化を取り入れ、瀬戸内海を通じた畿内との交流も盛んに行われていました。この地域は「京都（みやこ）平野」と呼ばれるように、市内には今も数々の史跡が残されています。北九州市と大分県中津市のほぼ中間に位置し、江戸時代には飴屋をはじめとする豪商が出現するなど、藩内では城下町小倉に次ぐ商業地として発展し、今の行橋の礎が築かれました。



地図出典：国土地理院

訓練概要

■訓練想定：11月6日10:00に、周防灘断層地震 M7.1～7.7が発生し 行橋市では最大で震度5強を観測した。地震発生直後より、大津波警報が発表され、行橋市の北部沿岸地域では、52分後に、最大津波高3.2m程度の津波が押し寄せ、家屋流失や浸水等の被害が発生する想定の下で、行橋市は地震発生後ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対して、防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。

■実施日時：平成29年11月6日（月）	10：00～12：00
シェイクアウト訓練	10：00～10：05
津波避難訓練	10：05～10：15
情報伝達訓練	10：00～10：30
緊急患者空輸訓練等	10：05～12：00
防災講話等	11：10～12：00

■主 催：内閣府、行橋市

■共 催：福岡県

■参加者数：約2,000名

■参加機関：地区自主防災組織、区長連合会、小学校、气象台、陸上自衛隊、航空自衛隊、警察、消防、NTT西日本等

当日の訓練内容

10:00～10:05 シェイクアウト訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置き、訓練参加者全員が、緊急地震速報を合図に、それぞれの場所で一斉に安全確保「まず低く、頭を守り、動かない」を行った。



10:05～10:15 津波避難訓練

大津波警報が発表されたとの想定で、市役所からの防災行政無線等による避難の呼びかけに応じ、居住地域及び小学校から津波指定避難場所への避難を行い、大津波警報等の伝達体制と沿岸（津波浸水予想）地域からの避難誘導要領について確認した。

▼垂直避難訓練



▼高台避難訓練



10:00～11:00 情報伝達訓練・緊急患者空輸

大規模災害発生時等における情報伝達の手段・要領について、防災行政無線等、避難場所と災害対策本部、航空機による情報伝達の行動により確認した。また、緊急患者空輸訓練を行い、現地災害対策本部及び防災関係機関との連携要領について確認した。

▼情報伝達訓練



▼緊急患者空輸訓練



10:30～12:00 車両展示・防災講話

大規模災害を経験したことのない市職員、地域住民及び児童等を対象に、気象台による防災講話等を実施し、災害時の体験・教訓を伝承し、住民の防災意識の向上を図った。

▼車両等展示



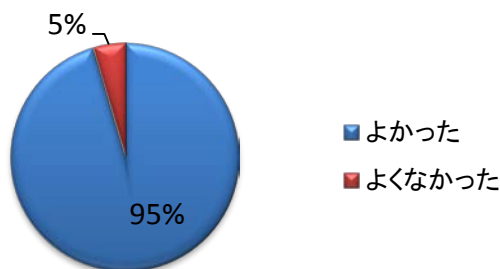
▼防災講話



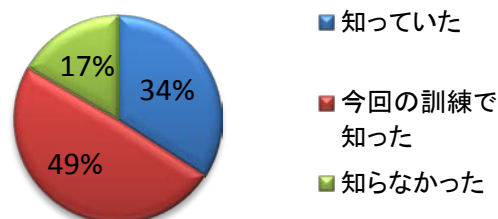
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：138人）

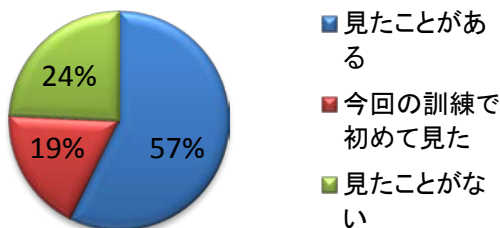
問 訓練に参加して、どう思いましたか？
（回答数：135人）



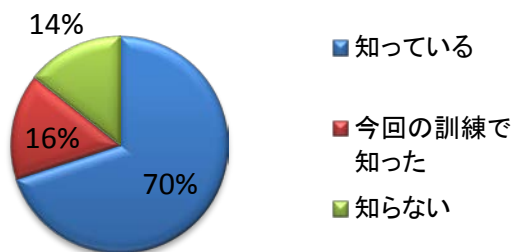
問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？（回答数：138人）



問 津波ハザードマップを見たことがありますか。（回答数：136人）



問 ご自宅からの津波避難経路を知っていますか。（回答数：133人）



訓練の評価

訓練当日は、快晴・温暖な天候に恵まれ、小学校、地区長会を始め防災関係機関が参加した。航空自衛隊築城基地、陸上自衛隊、福岡県警など官民19団体計約2,000人が、災害時の関係機関の連携体制や住民の避難手順などを確認し、一丸となって各訓練に終始熱心かつ真剣に取り組んだ。

地域住民のアンケートの結果、95%の方が「訓練に参加してよかった」と回答している一方で、次のような課題がある。

- 津波ハザードマップを約5割の方が見たことが無い、自宅からの津波避難経路を約3割の方が知らないと回答しており、更なる市民の防災意識の高揚を図るとともに引き続き啓発活動が必要である。
- 津波避難訓練では、市役所からの防災情報が聞こえ難いとの意見が多くあり、ハード面の確認や検討が必要である。